

「当たり前を当たり前だと思わない」

一般社団法人日本学生卓球連盟
幹事長 米田 裕哉

こんにちは。2024 年度の日本学生卓球連盟の幹事長に就任させていただきました、明治大学 3 年の米田裕哉と申します。私は東北の地・秋田県秋田市で生まれ、高校は卓球世界チャンピオンにもなった木村興治さんの母校、秋田県立秋田高校に進学しました。そして、現在の明治大学に在学しています。(学部は国際日本学部です！漫画やアニメの授業などもあり非常に楽しい学部なので、受験生の方は是非！笑)

さて、私のアゴラでは、学連に入って感じたことをベースに書こうと思います。実にシンプルですが、お時間ある方は最後まで読んでくださるとうれしいです。

大学で初めて大会運営を通して感じるのは、「当たり前を当たり前だと思わない」という事です。今までは選手として当たり前のように体育館に向かい、当たり前のように試合をこなし、当たり前のように帰宅していました。しかし、現在大会運営をしている身から言えば、その当たり前の裏には多くの人の苦労があつての当たり前だと気づいたのです。

実際に私の例をだすと、関東学生リーグは埼玉県所沢市の体育館で多く行われます。私の住まいは東京都調布市ですので、片道約 1 時間以上かかります。他の明治の選手と比べると、試合に出るだけであつたら、9 時会場にあわせてほしい起床時間は 7 時くらいかと思えます。ですが私は会場の準備や移動時間等含めると、5 時には起床していないと間に合わないのです。今はだいぶ慣れましたが、いやぁ大変ですよ(笑)。加えて、私も運営をしながら試合をするので他の人と比べ負担は割と多いのかなとか思ったりもします。ですが、選手ファーストで何事も考えて「頑張ろう！」と気合をいれ運営をしているのでノープロブレムです。自分でいうのはあれですが、1 つの大会のために色々な時間や準備をかけているからこそ、「当たり前を当たり前だと思わない」と思うようになりました。

また、この考え方は、日常生活や社会に出たときにも活かせるのではないのかと思っています。例えば、家族や友人との関係において、相手の努力や配慮に気づき、感謝の気持ちを表すことで、より深い関係ができると思います。また、仕事においても同様だと思っています。チームメンバーや上司、部下との関係において、相手の立場や努力を理解し、協力して仕事を進めることは、仕事をしていく上で最も大切ではないかと思えます(まだ社会人になっていないですが…)。さらに、現在私の立場のように、リーダーシップを発揮する際にも、部下やチームの状況を考えて、適切なサポートや指導を行うことが求められると思います。この姿勢を大切にすることで、チームはより効率的に働き、成果を上げることができるのでは？と思っています。

この「当たり前を当たり前だと思わない」姿勢を重視することができて、少し社会人には近づけているのかなと思います！あと最後にですが、いつも X 上で学生卓球界を盛り上げてくださっている卓球ファンの皆さんいつもありがとうございます！特に選手にとって自分のプレーを写真にして残してくれる事って本当に幸せです。これからも応援よろしく願いいたします！私も学生卓球界の発展に努めていけるよう頑張ります！最後まで読みいただきありがとうございました。